令和7年12月1日
（2025年）

保護者の皆様へ

吹田市立江坂大池小学校
校長　中野 圭子

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、2学期はじめに個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページで公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に注力することが、調査本来のねらいであると考えています。

調査結果を踏まえて、対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、児童の学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

各家庭・園におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

(1)<知識・技能> 全国値をやや上回っている

・学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく書き取る問題や、主語・述語の関係を捉える問題の正答率は、全国値を上回っている。文中に、同音の漢字が複数あると正答率が低くなっていた。

・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解する力は、全国値を上回っている。

(2)<思考力・判断力・表現力等> 全国値をやや上回っている

A 話すこと・聞くこと 全国値をやや上回っている

・インタビューにて、自分が聞こうとする意図に応じて、話を内容をとらえ、話し手と比較しながら自分の考えをまとめる問題は、全国値をやや上回っている

B 書くこと 全国値をやや上回っている

・伝統工芸のちらしを作成するにあたり、文章の構成を考えながら自分の意図が伝わるように書き表す問題の正答率は、全国値をやや上回っている。

C 読むこと 全国値をやや上回っている

・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題の正答率は、全国値を上回っている。

≪国語科における成果と今後の改善点について≫

国語科において、平均正答率は全国値をやや上回っていました。

漢字の書き取り等、基礎基本の内容については、朝のモジュールの時間の取組みや日々の宿題に継続的に取組んだ成果により、定着しているように思います。

また、資料を読み取り、文章全体をとらえての要旨の把握は、低学年から文章構成を意識しての取り組みが定着してきたものだと考えます。

一方、無回答も多く見られたことが課題として挙げられます。目的や意図に応じて要点をとらえながら具体的に文章を書く力を高めるために、自分の考えや思いを授業の振り返りやジャーナルに書き留めていくことでさらなる定着を図っていきます。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

A 数と計算 全国値をやや上回っている

・分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題は、正答率が高かったが、無回答率も高かった。

B 図形 全国値をやや上回っている

・平行四辺形、台形、角の大きさなど、図形の基本的知識は身についており、全国値を上回っている。

・五角形を分割してできる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて回答する問題では、全国値を上回っているが記述に苦手意識が見られる。

・4項目とも全国値をやや上回っているが、無回答率が全国値より高かった。

C 変化と関係 全国値をやや上回っている

・伴って変わる2つの数量（ハンドソープ）の問題では、全国値を大きく上回っていて、無回答率も少なかった。

・使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く問題は全国値を上回っている。

D データの活用 全国値をやや上回っている

・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断する問題は正解率が低くく、その理由を言葉や数を用いて記述する内容には苦手意識がある。

≪算数科における成果と今後の改善点について≫

算数科においては、全ての領域で正答率が全国値をやや上回る結果でした。

計算など繰り返し学習ものについては、児童も自信をもって回答しており、年2回行っている計算力診断テストや放課後学習「めだかの学校」の成果が出ていると考えます。

また、長い問題文を深く読み、自分の言葉でまとめる活動においては課題が見られました。本校では、「子どもが夢中になる 主体的・対話的深い学びをめざして」を研修テーマとして取組んでいます。対話を通じて考えを広げ深める授業づくりを意識しながら、引き続き、粘り強く、さいごまであきらめないで考え抜く力を育成していきたいと思います。

学年の実態に応じて、分割授業や習熟度授業、交換授業を行い、一人一人にきめ細かな指導が行き届くように努めます。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

A エネルギー 全国値をやや上回っている

・乾電池のつなぎ方、電磁石についてコイルの巻き数と磁力の関係を問う問題では、全国値を上回っている。
・電気を通す金属について問う問題では、正答率が全国値を大きく下回っている。

A 粒子 全国値をやや上回っている

・水の三態変化を問う問題については、全国値を上回っている。

B 生命 全国値をやや上回っている

・ヘチマの花や種子、レタスの種子に関する問題については、全国値を上回っている。

B 地球 全国値をやや上回っている

・知識を用いて選択肢から選んで回答する問題については、赤玉土の粒の大きさと水のしみこみ方、水の状態の変化、2問とも全国値を上回っている。
・赤玉土の粒の大きさと水のしみ込み方の違いについて、実験結果を用いて書く問題は、無回答率が高い。

≪理科における成果と今後の改善点について≫

理科においては、全ての領域で正答率が全国値をやや上回る結果でした。

児童が、学習に意欲的に取り組み、基本的な知識の定着や思考力判断力は身についていると考えます。

一方で、個々の児童の正答数には差が見られ、今後も、基礎基本を大切にしながら、観察、実験の結果を分析した内容などを根拠として表現する場面を設定し、協働的な学びを通して、思考を高めていく取り組みを進めていきたいと思います。

2 児童質問紙(生活習慣、学習等に関する調査)の傾向

【教科・学習について】

・国語・算数・理科おいても正答率が全国値より高い結果となった。しかし、未回答率は全国値より高く、自信のない問題には取り組みにくい傾向がみられた。「国語・算数の勉強が好きだと感じている」の質問においても肯定的回答は50%ほどで、自信がない、持てないことで好きではないと感じている児童が半数程度いることがわかった。算数科のみならず、対話を通じて考えを広げ深める授業を行うことで、学習により一層興味が持てるように取り組んでいく。

・学習するにあたり、タブレット活用についての質問における肯定的回答が概ね80%を超えており、タブレットを活用しての学習習慣が確実に身についている。授業や必要に応じて活用できていると感じている児童が多数をしめており、ICT 活用が根付いてきていると考える。

【基本的生活習慣等について】

・「毎日朝食を食べていますか」の項目に対して93%以上の児童がほぼ毎日食べており、80%以上の児童が同じぐらいの時間に寝て同じぐらいの時間に起きている。このことから健康的な生活を送れている児童が多いと考えられる。

・ICT の活用ができている児童が多い結果となったがその反面、自宅や園にある読書の本の数が全国値を大きく下回っていた。ICT の普及により、読書離れにならないように、本校独自の読書タイムの確実な確保、図書の時間における読み聞かせの充実を図り、読書に興味が持てるようにしていく。

【規範意識・自己有用感等について】

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対し、肯定的回答が 98.7%となっており、高い道徳的意識が身についていると考えられる。

・「自分にはよいところがある」では肯定的回答が 92%、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」では肯定的回答が 98.7%であった。自分自身の存在価値を認識することができていると考えられ、そのことが、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いに対しての肯定的回答 96%へとつながっている。引き続き、学校生活における取組を通して、より良い集団生活や子ども達同士、教職員と子ども達との信頼関係構築に努めていく。

3 最後に

全国学力・学習状況調査結果において、国語・算数・理科、全ての教科で正答率が全国値より高い結果となりました。しかしながら、国語や算数の勉強が好きではないと感じている児童が多いことや未回答率は全国値より高いという課題もみられました。このことを踏まえて、各教科において「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を教職員と児童が共有しながら、対話を通じて考えを深める授業及び指導の実践に努めて参ります。

また、規範意識や自己有用感についての質問では肯定的回答が 9 割を超えており、高い道徳意識と自分自身の存在価値の認識ができていると考えられます。

改めて、今回の全国学力・学習状況調査の結果から、子どもたちの生活の状況や学習や生活に対する意識をしっかりと捉え、学校・園・各家庭において子どもたちが学びに向かう環境を整えていくことが必要だと考えます。

今後の取り組みに、ご理解ご協力をお願いいたします。